第５回 全国ユース環境活動発表大会

受賞校のみなさん、おめでとうございます！

読売新聞社賞

北海道美幌高等学校

環境改善班

オホーツクの自然を守れ！オホーツクで実践した自然環境改善の成果

過去５年間の駆除の成果としてウチダザリガニ影響評価調査や在来種調査をし、未だ駆除しきれないウチダザリガニを完全に駆除する。活動は、①小学生から高校生を対象とした「ウチダザリガニ駆除を中心とした環境交流会」、②網走湖での環境調査、③鶯沢川でのウチダザリガニ影響評価調査、④大規模なウチダザリガニ駆除活動、⑤ウチダザリガニの有効利用の研究を実施。

高校生選考賞

愛媛県立上浮穴高等学校

カホンプロジェクトチーム

森林の想いを音色にのせて　～カホンを通じた森林環境教育の実践とドイツに学ぶ持続可能な森林管理～

上浮穴郡久万高原町は、森林面積が90％以上を占め林業が盛ん。しかし、森林管理を促進するためには国内での木材利用を推進していく必要がある。そこで、持続可能な森林管理技術の確立、木材利用の推進と啓発、SDGs達成の取り組みが活動の３本柱。カホンを用いた森林環境教育の実践。環境に対する影響の評価として、現在までに作成したカホン1291個でレジ袋45万枚分の炭素を固定した。

先生選考賞

石川県立翠星高等学校

食品科学研究会

廃棄果皮０宣言！眠っている地域資源を活用した６次産業化計画

石川県金沢市の「金沢ゆず」は、生産量のほとんどが果汁として利用されている。搾汁後果皮は全体の50％が食品加工会社に販売され、残り50％は販売先が無く廃棄されている。生産者の６次産業化支援のため、「廃棄果皮０システム」を構築。企業や生産者と協働し、ゆずピール煮を使用した「金沢ゆず大福」を完成させ、好調に販売した。また「廃棄果皮０システム」の全国展開を進める。

プレゼンター・審査委員

審査委員長
小澤 紀美子
東京学芸大学名誉教授

〈審査委員長　講評〉

自らそれぞれの地域の課題を把握し、その解決のために地域の特性を活かしたさまざまな活動を実践・継続している皆さんの姿から、ユースの環境活動が「新たなステージ」に突入したことを実感することができました。

プレゼンター
中井 徳太郎
環境省総合環境政策統括官

審査委員
三木 清香
環境省大臣官房
総合政策課民間活動支援室長

審査委員
小辻 智之
独立行政法人環境再生保全機構
理事長

審査委員
渡辺 綱男
国連大学サステイナビリティ高等研究所
シニアプログラムコーディネーター

審査委員
吉池 亮
読売新聞東京本社
教育ネットワーク事務局事務局長

審査委員
猪野 正浩
株式会社タニタブランディング推進部部長
広報・新事業開拓統括